

Project no.1 親子で収穫体験

全3回+1回で野菜を育てて収穫へ！
現代の子どもたちに野菜本来の姿を知ってもらおう！



プロジェクトリーダー
人間科学部
環境・バイオサイエンス学科3年生
岩崎 有美さん



DATA

- ・実施日 2009.09.05 / 09.23 / 10.31 / 12.05
- ・実施場所 甲山農地 (兵庫県西宮市) 神戸女学院大学 (ケンウッド館)
- ・参加人数 10家族36名 (子ども16名、大人20名)
- ・企画・活動期間 2009.04～2009.12
- ・学生メンバー数 9名
- ・協力先 NPO法人こども環境活動支援協会 (LEAF)

STAFF

(学生) 岩崎 有美 / 青山 恵 / 岡本 真奈 / 砂川 絢香 / 上山 祐佳 / 山口 友理 / 山本 文子 / 八束 絵美 / 養田 唯
(こども環境活動支援協会 (LEAF)) 久世 竜さん / 農地ボランティアの方々
(学生SA) 小西 くみこ / 友田 麻子 / 植田 久珠子 / 山口 真里奈

第1回 2009年9月5日 (土)

内容：夏野菜の収穫
冬野菜の種まき
夏野菜のレクチャー&クイズ
料理レクチャー&試食
参加人数：10家族31名
(子ども15名、大人16名)

子ども同士がすくなくよに！ 和気あいあいとした雰囲気で行。

私たちが事前に植えていた夏野菜の収穫と冬野菜の種まきをし、レクチャーやクイズで知識も深めてもらいました。採れたてナスの田楽の試食も好評。あまりの暑さにビニルハウス内でのクイズは、安全性を考えて場所移動。それ以外はすべて予定通りにいき、リハーサルの大切さを実感しました。



収穫したナスはこのあとすぐに田楽に！



「野菜の育ち方クイズ！わかるかな？」

第3回 2009年10月31日 (土)

内容：脱穀
冬野菜の収穫、芋掘り
野菜の旬のレクチャー&クイズ
料理レクチャー&試食
参加人数：10家族33名
(子ども15名、大人18名)

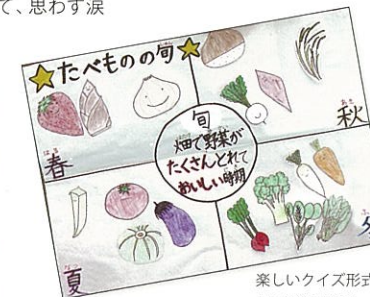
前より野菜が好きになったよ！ 子どもたちの笑顔に成功を実感。

最終日ということで午後まで活動し、第1回に種まきをした冬野菜の収穫、第2回に刈って干した稲の脱穀・精米、そして芋掘りを体験。精米したもち米と農地で採れた野菜をたっぷり使った豚もち汁は最高でした。作物の成長を肌で感じて、感動的な1日に。参加者から感謝の言葉をいただいて、思わず涙するメンバーも。



「種まきしたにんじん、大きくなったよ」

葉っぱや大根、にんじんも全て自分たちで作ったものを使いました。



楽しいクイズ形式で旬の野菜を紹介。



5月末に夏野菜の種まきをスタート。

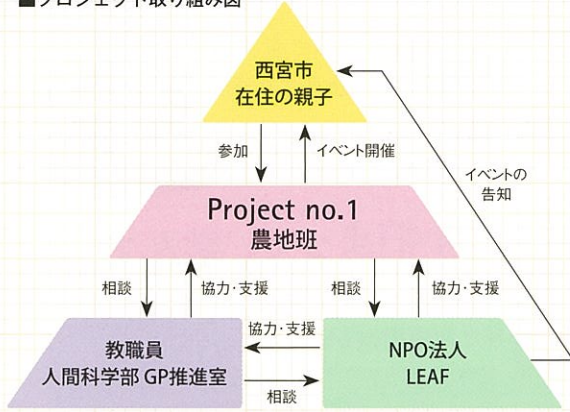


特に細かくチェックし合ったレクチャーの練習。



タイムスケジュールも万全に準備。

プロジェクト取り組み図



このような成功が遂げられたのは、教職員の皆さん、LEAFの方々の支えと協力があったからこそ。そして、チームワークの賜だと思えます。思っていることを発信する大切さを知り、たくさん話し合っ、信頼できる仲間になれたことが私への最高の贈り物でした。

第2回 2009年9月23日 (水・祝)

内容：もち米の稲刈り・稲干し
冬野菜の観察
米作りのレクチャー&クイズ
料理レクチャー&試食
参加人数：10家族33名
(子ども16名、大人17名)

日本人の主食、米について学習。 稲刈りや冬野菜の観察が興味を後押し。

危険なカマを使つての稲刈りを、子どもだけ、大人だけに分けて体験。子どもたちは注意事項をしっかり守り、真剣そのもの。米への興味をただだけでなく、親の手を借りずにやりとげたことが自信にもつながったようです。無農薬でしか食べられない芋のつるの試食には、多数の驚きの声。



安全第一！子どもたちも一所懸命です。



2回目だけにクイズはハキハキと進行。



毎回手作りしたレクチャー資料。

参加者の声

- *ただ収穫するだけでなく、クイズ等楽しく勉強できよかったと思います。
- *ナスが食べられない娘に自分の経験を話して励ましてくださり、一口だけ食べることができ、嬉しかったです。
- *日常食べているお米の成り立ち、食べられるまでの大変さを学び、改めて食物の大切さを実感。
- *普段なら触れることのできないことばかりで、本当に感謝。
- *学生の皆さんも楽しそうに積極的に参加されていました。「女性リーダー」を意識した行動がとれていたと思います。
- *野菜の栄養や旬などが話題にのぼるようになり、以前より身近に感じてくれるようです。

イベントを振り返って

- 一人ひとりが動かなければイベントはできないと学びました。「誰かがやってくれる」「リーダーに頼めばいい」といった「誰か」頼みでは9人の力は発揮できませんでした。
- やる前から無理だと決めつけず、未知なことにもチャレンジする勇気を持ってました。
- マイペースで視野も狭かった私が、メンバーからのアドバイスでいろいろなことに気づいたり、人と何かをする協調性が養われたことが大きいです。



フォローアップ 2009年12月5日 (土)

参加人数：7家族22名 (子ども11名、大人11名)

まだ終わらせたくない！ 女学院に招いて再会のひととき。

イベント後の子どもたちの変化や、第3回で配った種の成長具合を知りたい、逆に農地のその後を知ってほしいと思い、急遽、交流会の開催を決定。神戸女学院の自然と歴史を感じる学内ツアーと、農地の野菜を使ったケーキを食べながらの近況報告を楽しみました。子どもたちの絵日記と写真をまとめたアルバムもプレゼント。



ご飯を残すなんてもったいない! ドギーバッグも使って食糧問題を学習。

2日目の午前中は食糧問題のレクチャー。資料では数字だけでなく身近なものに例えてイメージしやすくしたり、ドギーバッグの組み立て競争をしたり、興味を引くための工夫をしました。子どもたちの表情を見ながら説明のやり直しもしたので、理解してもらえたと思います。ただ、予想以上に時間がかかり、クイズができなくなってしまったのが反省点です。



宿泊2日目 2009年9月22日(火・祝)

内容: 食糧問題についてのレクチャー、川遊び



「洗ってまた使えるって便利だね」

完成!

レストラン等で食べきれなかった食事を持ち帰るために作られたドギーバッグ。

元気いっぱい川遊び! たくさん学んだ時間がいよいよ終わりに。

西宮にきれいな川があることを知ることで、自然を大切に心が芽生えてほしいと思い、仁川上流で川遊びをしました。最後に、画用紙に2日間のまとめを自由に書いてもらい、バスで移動解散。子どもたちだけでなく、私たちにとっても勉強となった2日間でした。



予想できない子どもの動きは見守るのも大変!



フォローアップ 2009年9月~12月



イベント前から計画していたアルバムをクリスマスプレゼントに。

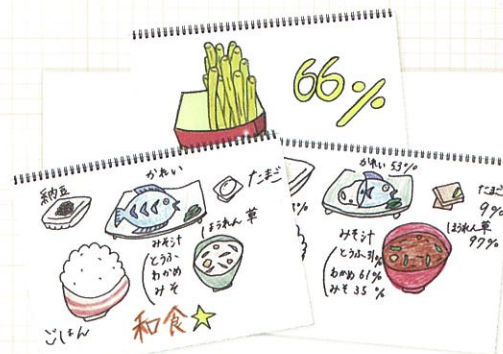
イベント中はメンバー全員デジカメ持参で自分の班の子を中心に撮影。参加者一人ひとりのアルバムを作り、私たちからのメッセージと最終日に書いてもらった画用紙も一緒にまとめて、クリスマスに贈りました。

イベントを振り返って

- 固定観念や先入観にとらわれることなく、柔軟に、臨機応変に行動する術が身についたような気がします。
- 役割分担をきちんと責任を持って行動することと、コミュニケーションをとることの大切さに気づきました。
- イベントは子どもたち同士の出会いの場となり、私たちの成長の場となることを実感。人とのつながりがイベントを通して広がっていったと思います。

参加者の声

- * 牧場に行き牛も人間と同じ命なんだとわかりました。本当に良かったです。
- * 私たち人間は生き物の命をいただいていることを勉強して、私たちはとも感謝しなければいけないと思いました。
- * アイスクリームを作った楽しかったしおいしかった。寝る場所はホテルみたいですごかったです。楽しかった。



実は5回も作り直したレクチャー資料。



実際に現地でリハーサルを実施。

企画~準備 2009年4月~9月

どうしても宿泊イベントがしたい!
調べて、考えて、先生方を説得。

命と食について、自然の中で考えてもらうために宿泊しよう企画するも、先生方から多くの指摘が。安全の確保や非常時の対策などについて話し合いを重ね、なんとか実現できました。6月下旬からは夏休み中も週2回程度集まり、下見、リハーサル、レクチャーのまとめなどの準備を。LEAFの協力を得て西宮市の小学校へ広報しました。



宿泊1日目 2009年9月21日(月・祝)

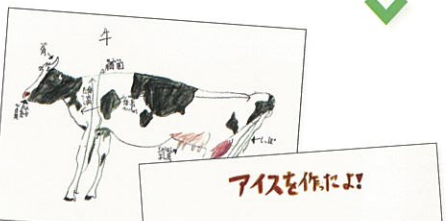
内容: 動物とのふれあい、牛の生態の学習、アイスクリーム作り体験、食についてのレクチャー、ゲーム大会

牛がいるからアイスクリームができる! 六甲山牧場で楽しくリアルに学習。

集合場所からまずバスで六甲山牧場へ。渋滞につかまったものの昼食時間で臨機応変に調整。動物たちとふれあい、獣医の久米先生から牛の生態について教えていただきました。その後の牛乳を使ってのアイスクリーム作り子どもたちの目はキラキラ。牛のおかげで、こんなにおいしいものが食べられるんだということを学びました。



本物の牛は迫力満点! 対面しながらリアルに勉強。



アイスクリームは牛の恵みからできたもの...を実感。



「牛さんがくれた牛乳、大事に使おうね!」



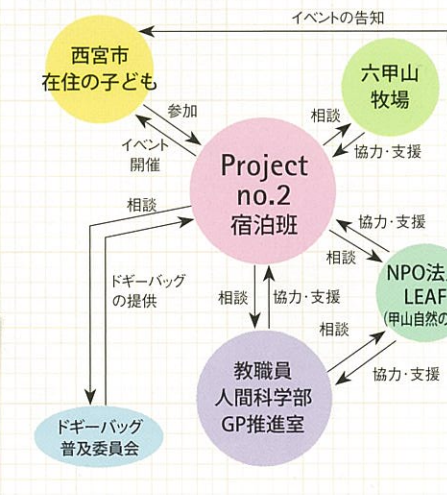
食べ物があるのは当たり前じゃない。 命の大切さを伝えたレクチャー。

夕方、宿泊地の甲山自然の家に到着。子どもたちは元気で大騒ぎでしたが、レクチャーの時間は真面目に。食べる時は命をいただいていることであると伝えたかったのですが、命の犠牲という残酷な内容にならないようにまとめるのは大変難しかったです。



食生活の変化や自給率を伝えました。

プロジェクト取り組み図



は川遊びを計画。遊びを通して、自然を大切にしようという思いを育んでもらうのが狙いです。子どもたちは勉強の時間も遊びの時間も生き生きと過ごしてくれ、手応えを感じました。このイベントを通して、柔軟で広い視野で調査・考察・計画をする重要性や、協力先の方々のありがたさを痛感しました。また、リーダーとなったことで責任感が生まれたと同時に、自分の班だけでなく自分だけの班じゃない、だからみんなでがんばろうと考えられるようになったのは大きな成長です。



プロジェクトリーダー
人間科学部
環境・バイオサイエンス学科 3年生
萩原 淳さん



Project no.3 わくわく!ぶんぶん! はちみつ採集

自分ではちみつを採集して、ミツバチのことをたくさん知ろう! 子どもたちが「自然と人の在り方」に興味を持つきっかけになりますように。



DATA

- ・実施日 2009.08.03
- ・実施場所 神戸学院大学理学館 (S-34、屋上)
- ・参加人数 10名 (小学5～6年生の児童とその保護者5組)
- ・企画・活動期間 2009.04～2009.12
- ・学生メンバー数 6名
- ・協力先 NPO法人こども環境活動支援協会 (LEAF)

STAFF

(学生) 山崎 慧/北川 真理子/森本 静/西條 衣美/山本 佳奈/山崎 有美子
(学生SA) 小西 くみこ/友田 麻子/植田 久珠子/山口 真里奈



プロジェクトリーダー
人間科学部
環境・バイオサイエンス学科 3年生
山崎 慧さん



現代の子どもたちは自然と触れ合う場所も機会も少なくなっています。そこで私たちは、親子で自然を感じ、興味を持ってほしいと考え、神戸学院大学で飼育しているミツバチのはちみつ採集を企画。採集体験をしながら、ミツバチ一匹が生に作れるはちみつの量はスプーン1杯ほどしかないということも知ってもらい、自然の恵みに感謝できるようにしてほしいという願いも込めました。

イベント当日はハチの習性と熱射病の危険に配慮し、午前中は2班に分けて進行。はちみつ採集・巣箱の観察と、はちみつを

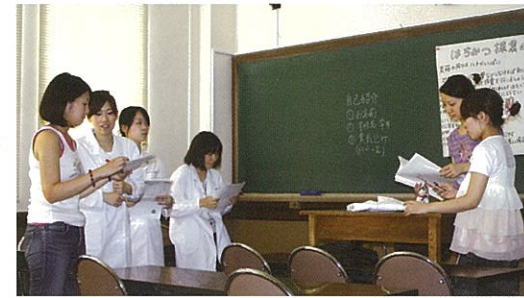
入れるビンのラベル作りとを交代で行い、午後は両班共にミツバチのレクチャー、はちみつのはちみつ採集、はちみつのはちみつ採集作業などを行いました。子どもたちからもどんどん質問が出て、レクチャーの時間も真剣な眼差し。後日、「僕は学校でハチ博士なんだ」と嬉しそうなお手紙も届き、子どもたちの心に何か大切なものを届けられたのではないかなと思っています。

今回のイベントは、ミツバチを飼育管理されている教授、健康医学の教授、保健室の先生などのご指導・ご協力をいただくことで、事故のない安全な運営が成し遂げられました。募集の際はLEAFの方にもお世話になりました。また、1日のイベントにも多くの力が必要であることがよくわかりました。また、将来、地域活性化につながる規模の大きなイベントを行い、たいという意欲も生まれ、大変有意義な経験となりました。

企画～準備 2009年4月～8月

はじめは企画に難航し、妥協案も。最終的には全員一致で「これしかない!」

神戸学院を自然を考えるきっかけの場にしたいという思いとイベント内容がうまくマッチせず、浮かぶのはありきたりな案ばかり。ところが5月末にはちみつ採集ができると知り、一気に企画がまとまりました。ミツバチの習性や採集方法を勉強し、採集練習も3回実施。7月にはLEAFさんのご協力を得て参加者の募集も開始。



参加者役と学生役に分かれて本番さながらにリハーサル。

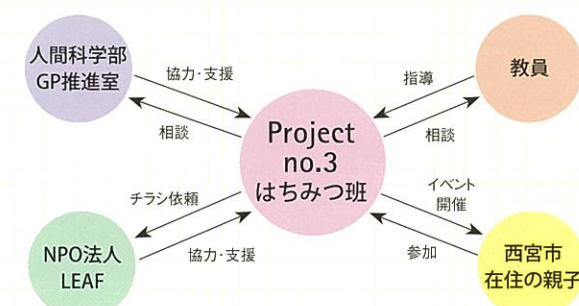


練習では採集手順をひとつひとつチェック!



当日配布する絵本や5分刻みのスケジュールで準備万端!

プロジェクト取り組み図



はちみつ採集体験

2009年8月3日(月)
9:00～12:30

内容:採集方法などのレクチャー、面布の着方の練習、はちみつ採集、巣箱・女王蜂の観察、はちみつピンのラベル作り



ミツバチの多さにびっくりの子どもたち。質問や意見が活発に出て、大成功!!

わくわく班とぶんぶん班に分かれ、屋上と教室での作業を交代で進行。屋上でははちみつ採集にトライ。親子で鋭い蜜刀を慎重に使用して蜜ぶたをはずし、はちみつを採集しました。その後、巣箱を観察したり、女王バチ探しをしたり。子どもたちからは好奇心いっぱいの質問がたくさん飛び出しました。教室でははちみつを詰めるビンに貼るラベル作りを。個性豊かなラベルに感心。



色とりどりのラベルが完成!



リハーサル通りスムーズに進行。



巣箱から取り出して緊張が高まる一瞬。

ミツバチがぎゅーしてびっくり!

フォローアップ 2009年8月～12月

貴重な体験をよい思い出に。そして自然への感謝を忘れないように。

採集体験の思い出を形に残してあげたいと、後日、手作りのアルバムを郵送。自然への興味や感謝の気持ちを忘れないでという思いから、イベント当日の写真だけでなく、はちみつを使ったレシピ、現在のミツバチの状況、ミツバチの豆知識を1冊にまとめました。心あたたまるお返事もいただけ、やり遂げた充実感に満たされました。



午後は疲れて眠くなる?の予想に反し、レクチャーにも興味津々。

子どもたちはミツバチへの興味がかなりわいたようで、レクチャーやクイズにも真剣に参加してくれました。女学院でとれた年代別、時期別、養蜂場別のはちみつの試食も、味や香りの違いに気づいて大盛り上がり!最後に、採集したはちみつをビンに詰めて終了。自分だけのはちみつに満面の笑顔を浮かべる子どもたちが印象的でした。

ミツバチの勉強

13:30～15:30

内容:ミツバチのレクチャー、ミツバチクイズ、はちみつの試食、はちみつピン詰め作業



ミツバチの奥深い世界をご紹介します。



食べ比べると甘さの違いがはつきり!



「自分だけのはちみつができました!」

参加者の声

(子ども編)
*最初はとてもこわかったけど、ずっと見ていると慣れてきました。女王バチが見られてよかったです。
*すごく楽しかったです。ハチさんはとても働かなくていい。見つけた女王バチがたまごを産んでいました。1日に100個以上産むなんて知りませんでした。ほくもハチさんみたいに、いっぱい働きたいです!

(大人編)
*西宮の知らなかった場所を知り、久しぶりに時間の流れが心地よく、親子ですべて満足しています。
*資料などのプリントが子どもにわかりやすく、とても興味を持っていました。帰宅後も家族に体験してきたことを上手に話しています。
*誠実で丁寧な学生さんの対応に感動しました。この養蜂が軌道に乗り、学校や地域でも実践研究が進めば、なお教育効果が得られると思います。

イベントを振り返って

- 1つの企画を実現する大変さを実感。さまざまな事態を想定して準備する重要性も知りました。
- メンバー全員が何をしているかを把握して、進行具合や負担のバランスをとれるようになりました。
- 当たり前と思っていたことが小学生にはわからなかったり、その逆もあったり。参加者の立場に立って、その目線で考えることの大切さを学びました。